



研究大会

新聞とTV報道 ことばを比べる

「第5回ことばと学びをひらく会」



国語教育について考える「ことばと学びをひらく会」(会長・高木まさき横浜国立大教授)が10月1日、東京都港区の慶応大三田キャンパスで開かれ、教諭や学生ら約380人が参加した。

今年で5回目の研究大会で、テーマは「ことばの力で未来をひらく」。基調講演とシンポジウムのあと、参加者もさまざまな実践講座に加わった。

小中学校の教科書に掲載された「新聞の読み比べ」に関する講座では、赤池幹・日本新聞協会NIEコーディネーターが解説したあと、植田恭子・大阪市立昭和中教諭が、9月に発生した台風被害を伝えるTV報道と新聞記事を比べ、その文章の違いを読み解いた。

また、臼井淑子・横須賀市立田戸小教諭が、「敬老の日」にちなみ、誰か特定の人立場になって参加者に新聞コラムを書いてもらう実践に取り組んだ＝写真＝。「敬老の日」という同じテーマでも、書き手の立場が異なると視点もがらりと変わるという新聞コラムの実態を目の当たりにし、参加者から感心する声が上がっていた。高木教授は「未来を切りひらく力を育む『ことば』と新聞は切っても切れない関係。会の活動で、これからも随時取り上げていきたい」と話していた。

(住吉由佳)